【高等学校用】

令和７年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度（評価）
Ａ：十分達成できている　Ｃ：やや不十分である

学校名	佐賀県立佐賀東高等学校

1　前年度 評価結果の概要（簡潔に）	・唯一無二の佐賀東であるための生徒指導・進路指導の充実と、部活動の振興と地域に信頼される学校づくりを推進していく。 ・多様化する入試環境への対応のため、教科指導力及び進路指導力の強化のための取組を推進していく。
2　SAGAスクール・ミッション	**○佐賀を愛し、地域社会の振興と発展に貢献することができる人材を育成すること。** **○県唯一のスポーツ科を有する高校として、部活動を活性化し実績を積むとともに、スポーツに関する専門的知識や、高度な技能を身につけた、スポーツで進路を切り拓く人材を育成すること。** **○校訓「使命に生きる」「自主自律を尊ぶ」「明朗清新を喜ぶ」の精神のもと、多様な個性を尊重し、生徒の目的意識を高め、保護者・地域から厚い**

3　スクール・ポリシー	アドミッション・ポリシー	カリキュラム・ポリシー	グラデュエーション・ポリシー
	・学校の核として勉学や部活動に真摯な態度で打ち込み、充実した高校生活を過ごしたいという意欲溢れる生徒 ・将来の夢や目標を持っており、その実現に向けて努力を惜しまない生徒 ・ボランティア活動や地域行事等の地域貢献活動に主体的に取り組む生徒	・多様な進路希望や興味関心に対応した教育を実践するため、少人数クラス編制や多様な選択科目を設置する。 ・普通科、スポーツ科のそれぞれの特色を生かした教育課程を編成する。 ・総合的な探究の時間において、生徒個々人の進路志望に応じた課題探究活動や地域探究活動を行う。	・多様化する社会に対応するための、幅広い教養と高い学力 ・他者を尊重するとともに、他者と協働して、主体的に問題解決に取り組む力 ・誰とでも公平・公正な態度で向かい合い、善悪の判断ができる力

4　本年度の重点目標	
	唯一無二の誇り高き佐賀東高校の教育実践のために ○「やる気」を伸ばす佐賀東 ～部活動で全国を目指したい気持ち、勉強を頑張って進路目標（進学・就職）を達成したいという「やる気」を伸ばします。～ ○「地域」に応える佐賀東 ～地域を愛し地域の課題を発見し、地域の人たちと協力しながら、全国で活躍する人材を育てます。～ ○「多様な人材」を育てる佐賀東 ～互いを尊重し、時代の流れをつかみ取り自分らしく生き抜いていく人間力を身につける教育活動を実践します。～

5　重点取組内容・成果指標　　中間評価　　最終評価

（1）共通評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
●学力の向上	○生徒一人ひとりに、明確な希望進路を持たせ、それぞれの進路実現に向けた取り組みを実践する。	○50%以上の大学進学率。国公立大学合格者数前年度以上。全員が納得して卒業する進路保障の実現（進路決定率100%）	・多様な進路に応じた、各種ガイダンス等を通じて、生徒一人ひとりの自己理解を深めさせる。 ・模擬試験等を活用して自己の現状と目標との距離を意識させる。	A	・各種ガイダンスの実施や高大連携の取り組みなどを紹介することができた。	A	・各種ガイダンスの実施や高大連携の促進により、3年生の卒業予定者数158名中156名の進路が内定（進路実現率98．7%）。また、国公立大合格者が11名。3年連続10名以上の合格者数。今年度の進路先未定の3年生は2名（1%）となる見込み。	A	・生徒の多様な進路希望の実現のために尽力をしていただいている。学校推薦型入試や総合型選抜への対応も充実している。また、学習指導だけでなく、面接や小論文などへの対応もしていただいている。このことが結果に結びついていると考えられる。
	○基礎学力の定着	○学期に1回の授業アンケートを行い、「授業の中で「できた」「わかった」と感じることができる」の回答「かなりそう思う・そう思う」を80%以上にする。	・授業アンケートの結果を精査し、生徒のニーズ・進路実現の観点を意識した授業改善を図る。 ・1回以上の研究授業・授業研究週間を実施し、教職員の授業力向上を図る。	A	・研究授業・授業研究週間の実施ができた。	A	・授業アンケートの肯定的回答は87%と目標を上回ることができた。 ・研究授業・授業研究週間の実施によって、まずは教職員の意識向上につながった。	A	・成果があがっていると考えられる。上級生の頑張りが下級生たちに引き継がれていくことを期待する。
●心の教育	●生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○理由なしの遅刻数100件以内 ○特別指導件数3件以内 ○「いいね！」カード発行を前年より増やす	・防犯講話やHR活動等において、情報モラル教育、人権教育を実施 ・指導カードを活用し早期サインに気づき早期対応を行う。 ・「いいね！」カードの内容を全校にアナウンスする。	B	・情報モラル教育や人権教育の講話を実施した。 ・特別指導件数が昨年度より増加した。	B	・情報モラル教育や人権教育の講話を実施した。また、ニュース報道等に合わせて、適宜生徒への指導を行うことができた。 ・特別指導件数が10件以上であった。目配り気配りを継続していくことで、問題行動の未然防止につなげていく。	A	・生徒たちの表現する力が上がっていることが感じられる。生徒の日常の活動をしっかり見て評価していただければと思う。
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実 ○担任・学年と連携を図り、困難を抱えている生徒の早期発見、早期対応を目指す	○いじめ防止等（いじめの定義、いじめの防止等のための取組、事案対処等）について組織的対応ができていると回答した教職員80%以上	・いじめの認知・覚知に対する対応マニュアルの作成・見直しを行う。 ・いじめの対応についての研修・会議を年間に2回以上行う。	A	・学校生活アンケート等について、早期に把握し、対応を考える場を設けることができた。 ・SC、児童相談所、行政との連携、情報共有ができた。 サポートルームで進路相談や支援を実施。	A	・「アンケートがあったから声をあげることができた」という回答があった。生徒の声を聞くことの大切さを改めて感じた。 ・今年度サポートルームの2名体制を実施した。より細かい対応が可能になった。	A	・サポートルームの活用など、しっかりした手立てを取ってある。保護者や関係機関との連携を密にして学校運営にあたられている。教職員が一丸となり、学校全体で共通認識を持って、生徒の安心・安全のために尽くしてほしい。
	◎★ふるさと佐賀への思いを醸成するための教育活動	◎「佐賀県に誇りや愛着を感じる・どちらかというと感じる」と回答した生徒80%以上 ★郷土の人材を活用した講演会等、各学年、年間1回以上	・各地域の郷土学習資料や「佐賀語り」等を活用した授業に取り組む。 ・郷土の人材を活用した講演会を実施する。	A	「佐賀語り」やDVD等を活用した授業を学期に1回行った。また、3学期には、佐賀県の魅力を生徒に伝える企画を考えている。アンケートについては年度末に実施。	A	・「佐賀語り」やDVD等を活用した授業を学期に1回行った。また、3学期には、佐賀県の魅力を生徒に伝える劇を上演、生徒の感想から、有意義な時間であったと思われる。	A	・引き続き「佐賀を誇りに思う教育の推進」に注力してほしい。 ・地域からも高く評価されている東高演劇部の公演等も十分に活用しながら、佐賀の良さについて、さらなる情報提供・周知をお願いしたい。
●健康・体つくり	●「望ましい生活習慣の形成」	○「生活習慣アンケート」を実施し、生徒の健康課題・傾向を見つけ、各々に適した指導を実施する	・生活習慣アンケートの集計結果から、健康課題について定期的に配布物を作成する。 ・健康診断結果について、複数回の受診勧告書の配付、個別の呼びかけのほか、担任や部活動顧問と協力して受診率向上に努める。	A	・生活習慣アンケートを実施した。健康課題についての配布物も適宜作成することができた。	A	・生活習慣アンケートの実施によって、生徒の生活リズム等について、知ることができた。結果を面談等でのフィードバックに生かすことができた。感染症の流行時等、健康課題についての配布物を適宜作成配布することができた。	A	・外部機関等の事業等も活用しながら、引き続き生徒の健康保持に努めてほしい。
	●「安全に関する資質・能力の育成」	●生徒の交通事故を0（ゼロ）にする ○交通安全に関する講演等を実施し、啓発活動を行う。	・学期始めの交通指導、危険箇所での交通指導を登校時に行う。 ・交通講話等を実施する。	B	・交通ルールに関する指摘を5件以上受けた。継続的に、学校付近の狭い道路事情に配慮した自転車運転を行う呼びかけや指導が継続して必要。ルール・マナー遵守の向上と相関した指導を継続して行っていく。	B	・交通マナー、ルールに関して、自転車の並進、右側通行に関する指摘を多く受けた。学校付近の道路事情に配慮した自転車運転を安全に行う呼びかけや指導が必要。道路交通法の改正も踏まえルール・マナー遵守の向上と相関した指導を継続して行っていく。	B	・地道に安全について伝え続けていくことが大切である。マナー、モラルの向上にむけて、引き続き指導を続けてほしい。
●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。 ●年間20日の年次休暇のうち、職員1人当たりの年次休暇の取得日数14日以上	・定時退勤日の設定 ・学校閉庁日の設定 ・部活動休養日の設定	B	・中間評価時点で、昨年度より時間外在校等時間は減少している。 ・業務の平準化をしっかり進めていかねばならない。	B	・全体的に昨年度よりやや時間外在校等時間は減少した。 年間年休取得日数12日であった。目標には及ばなかったものの、前年度より縮減された。 ・業務の平準化に向けた取組がまだ不十分である。	B	・都度都度の業務の見直しが大切だと考える。業務の平準化は難しいことであるが、業務内容の精査が望まれる。
●特別支援教育の充実	○特別支援教育に関する教員の専門性と意識の向上	○特別支援教育に関する専門性が向上したと回答した教員80%以上	・特別支援教育に関する研修会の実施 ・ケース会議の開催、関係者間での情報共有	A	・特別支援教育に関する研修会の実施、ケース会議の開催、関係者間での情報共有は概ねできている。	A	・職員間の情報共有を積極的に行ったため、生徒や保護者への対応もスムーズに行うことができた。また、専門機関との連携を図り、支援の幅も広がった。	A	・職員間の情報共有、専門機関との連携等、職員の積極的な取組が評価できる。

（2）本年度重点的に取り組む独自評価項目

重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価	
評価項目	重点取組内容	成果指標 （数値目標）		進捗度 （評価）	進捗状況と見通し	達成度 （評価）	実施結果	評価	意見や提言
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★魅力ある「スポーツ科」にするために、外部機関と連携を図り、授業内容を充実させる。	○スポーツ科の新しい科目内容を充実させ、生徒の授業満足度80%以上を目指す。	・外部機関との連携を密に行い、外部講師等を招聘する。 ・授業アンケートを実施し、生徒の反応を可視化する。	A	・スポーツ科の取組について意欲的に計画を進めることができている。	A	・「現代スポーツ研究」「トレーニング実習及び概論」等、外部機関との連携を密に行い、計画のほぼ完全実施ができた。	A	・非常に魅力的な取り組みである。継続的な取り組みと、成果を期待している。
○県内外への学校情報の発信	○「生徒広報部」の活動を充実させ、中高生に向けてダイレクトに魅力を発信できるようにする。	○生徒広報部で学校説明会に参加し、魅力的な広報を行い、動画再生回数県内5位以内を目指す。 ○Tiktokの総再生回数1,000万回以上、登録者数3,500人以上にする	・生徒広報部が主体となり、部活動紹介動画や学校案内動画を制作し、SNSで発表する。 ・ドローン映像とQRコードを活用し、魅力ある映像を手軽に閲覧できる状況をつくる。	A	・生徒広報部の活動を充実させることができている。 ・魅力ある映像の作成、周知に取り組むことができている。	A	・生徒広報部を中学校への高校説明会に参加させ、中学生から高い評価を得ることができた。 ・学校紹介動画等、多くの視聴をしていただいた。	A	・積極的な発信の姿勢を高く評価する。この成果を、どう志望校選択へつなげていけるのか。その仕掛けを考えていきたい。今後も、「唯一無二の誇り高き佐賀東高校」の積極的な情報発信を継続して実施してほしい。
○実践的・体験的な活動の充実	○地域への貢献活動(ボランティア) ◎互いを尊重し、主体的に取り組む生徒会組織を目指す。	○1年間で奉仕活動に参加したことのある生徒70%以上 ◎生徒会活動に関するアンケートを実施し、「主体的に参加できた」の回答80%以上	・各学年団と協力し、生徒への参加を促す。また、部活動単位でも参加できるように、顧問との連携を強化する。 ・全校生徒に、生徒会の一員であるという自覚をもたせ、生徒会役員を中心に様々な活動を行う。	A	・地域行事、河川清掃活動等への参加を通じて地域の方々からお礼の言葉を多くいただいた。	A	・河川清掃活動など地域の方々からお礼の言葉を多くいただいた。 ・部活動単位での協力が多かった。部活動に入っていない生徒のさらなる参加増が今後の課題である。生徒会と各学年との連携の重要性を感じた。	A	・活動を通して、実社会の中での自分や学校の立ち位置、役割をより理解できるような活動であって欲しいと考える。地域貢献が推進されていると考える。

●・・・県共通　○・・・学校独自　◎・・・志と誇りを高める教育　★・・・唯一無二の誇り高き学校づくり

6　総合評価・次年度への展望　（簡潔に）	
	・唯一無二の佐賀東高校であるための、生徒指導・進路指導の充実と、部活動の振興と地域に信頼される学校づくりを推進していく。 ・多様化する進路、特に入試環境への対応のため、教科指導力及び進路指導力の強化の図る取組を推進していく。 ・スポーツ科の円滑な運用をはじめとする、生徒の個性伸長のための教育課程の編成及び教育環境の整備充実を推進する。